

生徒たちと共に参加し, 楽しんで

国谷 哲男¹⁾

1. 石の魅力

ここ数ヶ月, 生徒たちと共に石にまつわる様々な学習をしてきました。私にとって, 石は砂や土と同じように足下に転がっている物でした。その石が姿を変えて新しく見えてきました。地球や山の成り立ち等を推測させる鍵であったり, 歴史的史跡物であったり, 様々なデザインの素材であったりと多様な姿を見えてきました。生徒たちと共に学習する毎に新しい発見や感動を覚え, 生徒たち以上に楽しんでいる自分を発見しています。

以下は, 顧問としての生徒たちとの関わりではなく, このプロジェクトに参加している私個人が感じたことを思いつくまま示したものです。

2. 歴史

「筑波山巡検」での講師の先生方の会話がきわめて印象的でした。

午前中の主に岩石の生成や変化の学習における

7,000万年前から6,000万年前の話(写真1, 2), その当時起きたであろう現象を想像しながらの会話, なにか気の遠くなるような思いで聞いていました。

そして午後は筑波山南麓での石像物の見学(写真3)。鎌倉時代や戦国時代, つまり800年前や600年前の話。同じ「歴史」でもこちらは人間の姿が見えてきます。急に私は, 今自分たちが学んでいる時間域の



写真2 ガーネットを探す生徒たち。



写真1 筑波山の花崗岩露頭での生徒たち。



写真3 庭灯籠(鎌倉中期)の説明をうける生徒たち。

1) つくば市立手代木中学校(美術部顧問)

キーワード: SPP, 花崗岩, 手代木中学校, 理数離れ, 美術部, 石彫



写真4 戦国時代(左)鎌倉時代(右)の五輪塔。

広がりを実感した思いがしました。

3. 先回りしない

同じ「筑波山巡検」でのこと。複数の生徒から出た疑問に注目させられました。小田城跡周辺の小田集落内にある1538年(戦国時代)の五輪塔(写真4左)を見た後に、三村山極楽寺跡にある鎌倉時代の五輪塔(写真4右)を見た時のことです。「何でこっちの方が新しく見えるの?」実際輪郭もシャープで形も整っています。それでいて300年以上の開きがあります。当然の疑問でした。「どう見たって・・・」と疑問は深まるようです。「ウソみたい・・・」という思いもあったでしょう。実は私も同様でした。そしてその後の講師の説明を聞いた時に、生徒たちと一緒に感動する自分を確認していました。「それだけすごいことなんだ!」と改めて五輪塔を見上げる生徒と私。たぶん生徒たちも学んだことを感動したことでしょう。

その時私は、ある情景を思い出していました。このプロジェクトを始めるに当たり、その基本姿勢のあり方を話し合いました。地質標本館の会議室でのことです。その席で青木館長先生が「先回りしないこと、教え込まないこと、この姿勢でいこう。たぶんこのことが理数離れや理数嫌いから脱却する鍵じゃないかな」とおっしゃいました。まさしくこれだな、と思いました。素直な疑問、真剣な疑問が解消された時の快感、感動を伴った理解。生徒たちの表情が、歩き疲れた疲労感から急に輝いたように見えました。



写真5 石彫に励む生徒たち。

4. 石を彫ること

正直言って、生徒と共にハマっています。石彫りが、彫る作業そのものが楽しい。「なぜだろう?」、「それが石の魅力!」、「そもそも人間は物をつくるのが好き・・・」、「あの硬い石が自分の形になってくる。すばらしい・・・」、いろいろと推測されますが、とにかく楽しい。放課後すぐに現場へ駆けつけ黙々と槌をふるう生徒たちの姿を見ると、たぶん生徒たちも同じなのでしょう(写真5)。短い時間(秋は日暮れが早い)を惜しんでコツコツ励んでいます。

なかなか彫れない。花崗岩は硬い。時折火花を散らし、少し欠けてくれる。石の欠けらがゴーグルに飛ぶ。首筋やむき出しのスネに欠けらが当たり、チクリと痛い。そしてまた少し彫れる。本当に時間がかかる。それなのに惹かれる。私も生徒も。これが「石」の魅力なのか? これが「彫る」魅力なのか?

5. 振り返って

学ぼうとする生徒たちを中心に、それぞれ専門の先達たちがちりばめられたこのプロジェクト。「この授業は質問の答えがすぐ返ってくる」とつぶやいた生徒。この生徒は学ぶことが楽しくなります。意欲的になります。そして更に新しいことを学ぼうとします。来年の姿を楽しみに思う私です。

KUNIYA Tetsuo (2008) : Pleasure in attending SPP classes with students.

<受付: 2008年1月15日>